

神 企 大 第 1 号
令 和 8 年 4 月 1 日

神戸市外国語大学の今後のあり方検討委員会 会長

神戸市長

諮 問 書

貴委員会に、以下の事項について諮問いたします。

記

1. 諮問事項

神戸市外国語大学の今後のあり方について

- ①神戸市が公立大学を設置している意義について
- ②中央教育審議会の答申（令和7年2月）を踏まえた高等教育機関の見直しの方策の選択可能性について
- ③上記①②を踏まえた神戸市外国語大学の今後のあり方について

2. 諮問理由

急速な少子化等により高等教育を取り巻く状況が大きく変化する中、令和7年2月、中央教育審議会において、「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」の答申が取りまとめられた。同答申は、高等教育機関全体の規模の適正化の観点から、各教育機関が設置者別の役割や機能を踏まえつつ、自らのミッションを再確認し、将来像を定めていくことを求めている。

神戸市外国語大学は、昭和21年設立の神戸市立外事専門学校を前身とし、昭和24年の四年制大学への昇格以来、幅広い国際知識と高度な外国語能力を具えた人材を育成し、国際都市・神戸の発展に寄与してきた。

一方、神戸市外国語大学を取り巻く状況は、18歳人口の急速な減少や国における理系重視の教育政策の進展、市内及び近隣大学におけるグローバル教育の充実、人材ニーズの多様化など、大きく変化している。さらに、市内高校出身者の志願率や卒業生の地元就職率といった、一般に公立大学に期待される役割の観点において課題が顕在化している。

このような国の動向や大学を取り巻く環境の変化や課題を踏まえ、公立大学としての意義や役割、そして今後のあり方について、貴委員会の意見を求めるものである。